



ワーキングメモリの働きを最大限発揮するために

隣の部屋に鉛筆を取りに行こうと思って、途中で何を取りに来たのか忘れてしまった経験はないでしょうか。そして、なぜか元々いた場所に戻ると思い出せるのです。このようなエラーは一時的に情報を覚えておくことに失敗した例です。「一時的に」というのは、「鉛筆」の知識が記憶から失われたわけではなく、あくまでも「何を取りに来たのか」を忘れてしまったということです。

何かのために一時的に情報を覚えておく働きを「ワーキングメモリ」と呼びます。この、ワーキングメモリはそのときの状況によっても左右されます。学習を行う際には様々な状況について配慮を行うことで、ワーキングメモリの働きを最大限発揮することができるのです。

～ワーキングメモリと周囲の環境との関係～（ワーキングメモリを最大限発揮できるようにするための支援）

①ワーキングメモリと情動の関係

人前で話すとき、心配で頭が真っ白になるように「不安」がワーキングメモリに負担を掛けることがあります。不安を取り除く声掛けや支援で、児童の不安を払拭することが有効だと考えられます。

②刺激の多い状況

私たちは集中したいときに、静寂で刺激のない環境を選びたいくなります。物音や光の刺激を意志の力だけで無視をすることは難しく、刺激に反応することはワーキングメモリの働きをそちらに割くことになってしまうからです。刺激をシャットアウトするためにイヤーマフなどを活用する方法があります。

③なじみのない新しい場面、情報

新しい場所に行ったり初めて会う人と話したりすると、疲れを感じることがあります。様々なことに同時に注意を向けてワーキングメモリの負担が高まってしまうためです。慣れた環境で学習を行うことで、ワーキングメモリの負担を減らすことができます。

④学習していることと同じ種類の情報

子供の頃、誰かが紙の枚数を数えている時に、横から違う数字を言われ、つられて間違えてしまったことはありませんか？もし、「星、鳥…」など数ではない単語を話してもそれほど影響は受けませんが、数と数のように同じ情報だと干渉し合います。動画等を見ながら読解の学習を行うことは避けるとよいでしょう。

⑤マルチタスク

ここで挙げた①～④の例はいずれも複数の情報を並行して処理するマルチタスク事態であると言えます。不安、余分な情報、新しい情報と、本来取り組むべき課題とが同時にワーキングメモリを占めているのです。マルチタスクは、シングルタスクになるように工夫しましょう。

ワーキングメモリには、個人差があります。しかし、その子がつまづきを最大限発揮できるかどうかは支援によって変わってきます。記憶に自信がない児童も、大人側の支援次第で少しの自信に繋がるかもしれません。

＜引用・参考＞理論に基づいた「学習」を目指して…教室の中のワーキングメモリ 弱さのある子に配慮した支援 河村暁著/明治図書

巡回指導カレンダー 7月

行事等の関係で変更があった時は、連絡帳等でお知らせします。

		1 日(水)	2 日(木)	3 日(金)
		滝野川第四小 滝野川第五小	堀船小 滝野川第四小	堀船小 滝野川第五小
6 日(月)	7 日(火)	8 日(水)	9 日(木)	10 日(金)
堀船小 滝野川第四小	堀船小 滝野川第五小 出張あり	滝野川第四小 滝野川第五小 出張あり	堀船小 滝野川第四小	堀船小 滝野川第五小
13 日(月)	14 日(火)	15 日(水)	16 日(木)	17 日(金)
堀船小 滝野川第四小	堀船小 滝野川第五小 出張あり	滝野川第四小 滝野川第五小	堀船小 滝野川第四小	指導予備日
夏 休 み				
	9 月 1 日(火)	2 日(水)	3 日(木)	4 日(金)
	指導予備日	滝野川第四小 滝野川第五小	堀船小 滝野川第四小	堀船小 滝野川第五小